

# 「建替えの方が安上がり」の市の説明は「ごまかし」です

9月26日の「庁舎整備特別委員会」に、熊本市役所の建替えや改修にかかる「コスト」の説明がありました

## 「建替え」が安く見えるライフサイクルコストの積算は問題

市が提出してきたコストの積算比較

(億円)	耐震改修(案)	設備のみ改修(案)	現地建替(案)	別地建替(案)
整備費	272.1	185.2	408.6	339.8
仮庁舎費	10.4	10.4	0	0
現庁舎解体費	(38.7)	(38.7)	(整備費に含む)	(整備費に含む)
整備費後の長寿命化経費	78.4	79.1	419.5	419.5
ランニングコスト	114.6	114.6	432.2	432.2
<b>(小計)</b>	<b>514.2</b>	<b>428</b>	<b>1260.3</b>	<b>1191.5</b>
補助金・交付税措置	-70.2	-32.2	-87.2	-107.9
市の負担額	444	395.8	1173.1	1083.6
延床面積・試算年数	40,000㎡、32年	40,000㎡、32年	53,500㎡、79年	53,500㎡、76年
単位面積当たりの年間負担額	3.47	3.09	2.78	2.67
<b>*市議団の試算(下段)</b>				
<b>1年間に必要な額</b>	<b>(13.88)</b>	<b>(12.36)</b>	<b>14.87</b>	<b>14.28</b>
現庁舎解体費除く	12.66	11.6		

### なぜ「単位面積」で比較？

市の示す「単位面積」比較ではなく、年間必要額で比較すべき。建替えの方が年間3億円以上高くなる。しかも、別地建替の場合は、「土地代」約100億円が見込まれ、必要額は年間15.6億円とさらにアップします。

### 改修案から「現庁舎解体費」を除けば、「改修案」の方がずっと安い

「現庁舎解体費」を改修案のコストに入れるべきではありません。建替案同様に新築費用に含めるべき。そうすれば、改修案がずっと安くなります。市の積算は、精査の必要があります。

### 日本共産党 市議会だより

熊本市中央区手取本町1-1 3階  
発行：日本共産党熊本市議団  
上野みえこ なすまどか

NO. 1158  
2019年10月6日号  
電話 328-2656  
FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp  
HP：共産党 熊本市議団



検索



## 市議会・各会派からも、「慎重審議を求める」意見が

市の積算は、左記のように、「建替え」がコスト面で有利と思えるものになっています。しかし、一つ一つの数字も精査の必要があり、長寿命化による長期見通しの比較も必要です。長期スパンでは、改修の方がコスト削減となることは明らかです。

前回・前々回と参考人の意見聴取では、耐震性能について建築構造の専門家の意見も分かれており、委員会における各会派の意見は「慎重な対応をすべき」というものでした。議会のみならず、市民の理解も得られておらず、拙速にはすすめることのできない問題です。

### 【控室から】消費税増税は許さない、5%へ減税を

上野 みえこ



10月から消費税が10%へと引き上げられました。庶民いじめの大増税は、今でも冷え込んだ消費をさらに冷え込ませ、暮らしも厳しくなっていくことは間違いありません。マスコミでも、増税にどう対処するのかと、連日特集が組まれてきました。軽減税率やポイント還元など、集めた分を戻すというのなら、今からでも元に戻してほしい、やめてほしいというのが圧倒的な国民の声ではないでしょうか。

熊本でも、増税初日となった1日、中心商店街アーケードで、「もうだまっていられない！ぜったいダメ！消費税10%」をかかげての怒りの抗議行動が市民団体によって取り組まれました。

地域に耳を傾けると、小さな事業者にとっては、移行に向けての事務的な負担、経費的な負担もあり、まさに「踏んだり、蹴ったり」です。

消費税増税に象徴される、安倍政権の弱いものいじめの政治、絶対に許されません。日本共産党は、「緊急15%への減税」を求めて、広く共同しながら頑張っていきます。

# 市電延伸予算の凍結が解除されました

9月25日の予算決算委員会で、凍結されていた市電延伸の調査設計経費6100万円を解除することが賛成多数で決定されました。

日本共産党市議団としては、最終日の討論において、100億円から130億円の大規模事業であり、市民サービスや福祉サービスにどのような影響があるのか、路線バスとしての実用性や環境への賦課も少ないと評価されたEVバスは市電に代わることができないのか、費用対効果など

まだまだ検証を進める必要があるとして、凍結解除については反対の立場を取りました。

## EVバスとは？

電気を動力としたバスで、今年実証実験が行われ、実用性も評価され、環境に対する負荷も少ないとの結果がでました。



- 1) 排気ガス ほぼゼロ
- 2) CO2排出量はディーゼルバス比▲35%

# 福祉・子育て・教育の充実に向けた財源について議論を！

桜町再開発への450億円（市債の利子分含む）の税金投入、熊本城見学通路、今後の市庁舎建替え問題（最大400億円）、NHK跡地やJT跡地の買収など、ここ数年で莫大な税金が各事業に投入されています。

こうした中で、国保料や介護保険料の値上げ、施設利用料や使用料の値上げなど市民サービスの削減が続いていま

す。市電延伸については強く望まれている方もいらっしゃいます。しかし、福祉や子育てや教育などの充実に向けた財源をどう確保していくのか、こうした議論も必要です。

公共交通の充実は重要な課題ですので、引き続き議論をしていきたいと思ひます。

## 補聴器の購入に公的補助を!!



市議会厚生委員会には、「補聴器の購入に対して公的補助を求める陳情書」が提出されました。

高齢化に伴い、耳が聞こえなくなり、仕事や日常生活に支障をきたす難聴者が増えています。

現在、国の補聴器購入への助成は障がい者手帳を持つ高度・重症難聴者が対象となっていますが、中度の難聴者の補聴器購入には助成制度

がありません。難聴により、日常生活が送れず、社会参加の機会が奪われる、人と会う機会を減らすなど、認知症やうつ病の悪化を招く危険があります。

なすまどか議員は「国に対して制度創設を求めると同時に、市独自の助成を行うべき」と求めました。

## 市電延伸の位置や費用について

○位置図



○整備概要

整備延長	約1.5km
軌道	複線
利用者見込み(年)	約58万人 (そのうち、新規公共交通利用者：約45万人)
費用便益	1.0~1.3 (効果>費用)
概算事業費	約100億~130億 (新車両8両購入費なども含む)

<参考> 概算事業費の内訳

事業内容	概算事業費
軌道関連	約40~45億円
道路関連	約45~70億円
車両購入	約15億円